



a tale of two homes

デュアル・ライフを楽しもう

Photos: Kisei Kobayashi (P.110~113)

Takeshi Miyamoto (P.114~117), Nacása & Partners Inc. (P.118)

Text: Kiyohiko Watanabe (P.110,111&114~117), Atsuko Udo (P.112&113)

近年、デュアル・ライフを楽しむ人が急増している。都心でバリバリ仕事をこなす一方で、週末には郊外のセカンドハウスをベースにして、ホビーに夢中になったり、ホームパーティーを楽しんだり。ハンプトンのビーチハウスや郊外のセカンドハウスで気軽にデュアル・ライフ実践するニューヨークのように。ただの「別荘暮らし」じゃない。都心と郊外の双方にコミュニティを持ち、どちらも大切にするライフスタイル。2つの生活を行き来して、自分のリズムとベースを生み出している人たちが、今、とても気になる。デュアル・ライフは、人生を2倍楽しむための選択肢かもしれない。

海へ、山へ、車で2時間も走れば、身も心も自然にモードが切り替わる。憧れの、デュアル・ライフの魅力を大公開！

海派のデュアル・ライフ

青空をひとりじめ！ビーチハウスのデュアル・ライフ

七里ヶ浜・Y邸

110

■デュアル・ライフ歴：1年
 ■この部屋・住宅を使用する家族
 構成：本人&パートナー
 ■デュアル・ライフのスケジュール
 青山のマンションから大手町の会
 社へ勤務。全曜日の夜に車で七
 里ヶ浜へ。土曜日はランチと食料
 品の調達。夕食は家でゆっくりと。
 日曜日は邸内でのんびり。

2階はワンルームのリビング。
 外には同じくらいの広さの
 デッキが広がる。視界に入る
 のは空と海だけという贅沢。

南と西の2面に大きな開口部
 を設置。ラフな質感のウッド
 デッキがビーチハウスの雰囲
 気をかもし出す。



まぶしい陽光。光る海。デッキか
 ら見下ろせば、相模湾と江ノ島と七
 里ヶ浜。海辺のデュアル・ライフを楽
 しむYさんは、この家に来るたびに
 突き抜けるような開放感に包まれる。
 ふだん生活しているのは青山のマ
 ンション。ある日、パートナーが仕
 事でもたまたま訪れた鎌倉で、心を奪
 われる土地に出会った。江ノ電から
 下りて高台が上がってみると、そこ
 には日本とは思えないような景色が
 広がっていた。ここにふさわしいのは
 カリフォルニア・マリブのビーチハウ
 ス。イメージはすぐに固まった。
 明るい日差しを楽しみに来るのだ
 から、リビングはオープンに。ウッ
 ドデッキでもくつろげるようにした
 い。ホームパーティができるようにバ
 ーカウンターも欲しい。インテリア
 は本物志向にこだわる。日ごろ忙し
 く働くふたりは、休日をエンジョイ
 するためのわがままを全部、設計に
 取り入れてもらった。
 金曜の夜に東京を脱出。土曜日は
 ふたりでランチに出かけて、ディナー
 は家で。そのまま夜遅くまで、天井
 に収納できる巨大スクリーンでDV
 D・映画を好きなだけ観て過ごすこ
 とも多いと笑う。天気によければ日
 曜日は海岸通りを散歩するけど、家
 でずっと海を見ていることも珍しく
 ない。「海という夏の印象が強いか
 もしれませんが、本当は冬がいいん
 です」とYさん。空から差し込む透き
 通るような自然光は、心も体もぼか
 ぼかにしてくれる。飛行機に乗らな
 くてもたどりつける、自分たちだけ
 のデュアル・ライフがここにある。